

Local Color

ニッポンのスケートボード風景。

日本中のスケートスポットを巡る旅の中で、多種多様な風景に出会う。
どこかで見たことがあるようで、初めて見る光景がたくさんある。
日本に住んでいながらもそのディテールについて実際知っているのは
生活圏内を中心としたごく一部であることに気付く。
普段はあえて目に留めないような、どこにでもあるような日常的風景にも
その土地ならではの特色が潜んでいる。
自分たちが“スケートスポット”と呼んでいるものはそのほとんどが人工物
そのオブジェクトがそこに存在するのには何かしらの理由がある。
地形や天候、そこに暮らす人々の気質
その土地ならではの多くの要素に基づいている。
世界は広いが、日本も十分に広いことを知る。

荒川晋作 = 写真＋文
photo & text: Shinsaku ARAKAWA



甲府

Mantaro Tokura / bs flip

山梨・甲府の丘の上から、緩やかなダウンヒル。
こういった場所の大きなメリットのひとつは、
キックアウトがほぼ皆無であること。
時折遭遇する通行人も大抵は
スケートボードに対して寛容だった。
17歳、戸倉万太郎の爆発的な
bs flipは遠目に見ても未恐ろしい。



仙台

Shintaro Maruyama / fs smithgrind
仙台的郊外、ソーラーパネルの群れ。2011年の東日本大震災以降、太陽光発電の普及が急速に進んだという。このスポットはその副産物。景色も、スケートスポットも、その在り方はいつもどこかしらに世相を表す。



沼津

Jiro Kaneko / hippie jump
風景との出会いは大抵突然で、そこにスケートできるオブジェクトがあるとは限らない。そして何より、メイク出来るスケーターが居合わせることが絶対条件。
金子次郎とのスポットシークの途中、静岡・沼津にて。



横浜

Shin Sanbongi / boneless tailslide

週末の港湾エリアは静かで、そこに居るのは釣り人もしくは何らかの趣味の人々。稀にスケーター御一行。
世界中を飛び回る三本木 心も多くの旅の中でずっと様々な光景を目にしてきたのだろう。この日は彼の地元からも遠くない、横浜にて。



札幌

Shinya Kumagai / wallride nollie
7月の北海道・札幌。市内の繁華街を約1km貫くアーケードは夏祭りを目前に控えていた。
現地在住の実力派、熊谷慎也による深夜のノーズジャム。北海道の儚くも濃い夏を存分に感じる。



甲斐

Shintaro Hongo / bs 50-50 wallride out

山梨への旅。駅前の広場、線路沿い。17歳の本郷真太郎にとってこの土地がどう見えたのかは知らないが、この長いストレートレッジは彼にとって格好のスポットだった。どこにでもあるようでここにしかない風景と状況、二度とない瞬間。



甲府

Shinichi Ito / boneless

映像では何度も目にしていたこのオブジェクトの実物の巨大さに圧倒される。人間が作り出すものは時に凄まじい。
スケートボーディングはコンクリート等の人工物なしにはほぼ成立しえない。初秋の大きく力強い雲が印象的だった山梨・甲府。



伊豆

Yuki Shigeto / handplant fs wallride
 春先、2ヶ月ほど伊豆に滞在していた重藤悠樹は釣りスポットの探索中にここを発見したらしい。
 釣り好きなスケーターにとっては珍しくない話。そもそも用事もないのにこんな所に行く人はいない。きっと未知のスポットはまだまだ眠っている。





松島

Shota Kikuchi / ollie
宮城・松島。大小260余りの島々が浮かぶこの湾は日本三景のひとつである。実際にそれを一望出来るベストポジションは付近の山頂の展望台で、大抵の観光客はそこを目指す。海沿いのアスファルトに興味を示す者はきっとほとんどいないが、スケーターは例外である。